

会 議 要 録

会 議 名		平成 29 年度第 1 回 小平市青少年問題協議会
日 時		平成 29 年 4 月 19 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分
場 所		小平市健康センター 4 階会議室
出席者 等	委 員	13 名（欠席者 4 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、生活支援課長補佐兼保護担当係長、地域学習支援課長、指導主事、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		0 名
会議 内容	1 開 会 2 委嘱状交付 3 委員自己紹介 4 会長・副会長の選任 5 議 事 (1) 小平市青少年問題協議会の概要 (2) 小平市子ども・若者計画策定の基本方針について (3) 小平市子ども・若者の意識・実態調査の結果について 6 情報交換・意見交換 7 その他 8 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料 1 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料 2 平成 29 年度 小平市青少年問題協議会 会議日程 資料 3 地方青少年問題協議会法・小平市青少年問題協議会条例 資料 4 小平市子ども・若者計画策定の基本方針について 資料 5 子ども・若者育成支援推進法 資料 6 子供・若者育成支援推進大綱 資料 7 「東京都子供・若者計画」の概要 資料 8 第 2 次小平市青少年育成プラン＜概要版＞ 資料 9 小平市教育振興基本計画＜概要版＞ 資料 10 小平市第三期地域保健福祉計画・障がい者福祉計画＜概要版＞ 資料 11 小平アクティブプラン 21＜概要版＞ 資料 12 子ども・子育て支援事業計画＜概要版＞ 小平市子ども・若者の意識・実態調査報告書 第 2 次小平市青少年育成プラン・推進状況調査報告書（平成 27 年度版） こころの東京革命 ひらく - 未来をひらく、心をひらく -	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 小平市青少年問題協議会の概要

質疑なし

(2) 小平市子ども・若者計画策定の基本方針について

- 委 員 昨年度の青少年問題協議会の審議内容は。
- 事務局 昨年度の青少年問題協議会では、今年度策定する子ども・若者計画の基礎資料となる調査を実施するに当たり、調査設計や調査項目、設問内容を審議した。その他、現計画の第2次小平市青少年育成プランの推進状況についての報告を行った。
- 会 長 今後は、昨年実施した実態調査を受けて、子ども・若者計画の審議を行っていくことになる。
- 委 員 前任期から子ども・若者計画の審議が始まっていることがわかったが、前任期で審議した内容がわかる資料はあるのか。また、事前に確認しておくべき資料などはあるか。
- 事務局 昨年度の審議内容は、市のホームページで会議要録を公開している。今後協議会において、わかりやすい資料等工夫しながら資料の提供をしていく。また、事前に資料に目を通せるよう協議会開催の一週間前には資料を送付する。

(3) 小平市子ども・若者の意識・実態調査の結果について

- 委 員 小学生への調査は実施したのか。
- 事務局 昨年度小平市教育委員会が実施した小平市の教育に関するアンケート調査において、小学校6年生、中学校1年生、中学校3年生への調査票に子ども・若者計画の観点からの設問を追加し調査を実施した。ここにまとめられた調査報告書には、追加した設問の結果のみを掲載している。
- 委 員 小平市の教育に関するアンケート調査では、子どもの貧困に関する実態を把握できるのか。
- 事務局 小平市の教育に関するアンケート調査には、子どもの貧困を把握できるような設問は設けられていない。この調査は、小平市教育振興基本計画の中間見直しを目的に実施されているため、前回の調査と同様の設問内容となっている。
- 委 員 回収率について、標本数3,000に対して934が有効回収数となっているが、934人が回答してくれたのか。
- 事務局 16歳以上29歳以下の市民3,000人の中934の方が回答していただき、回収率が31.13%となっている。

2 情報交換・意見交換

- 委 員 現在学校支援コーディネーターのほか、保育園と介護施設で働いている。その中で、若者が将来の目標や夢を語りあえるような関係をもてる場があれば良いと感じている。
- 委 員 現在の子育ては、自分が子育てした時よりもとても大変になってきていると感じている。子どもたちと地域の人との斜めの関係が重要であると感じており、このような関係を築いていければと思っている。また、子どもたちの

声を届けられるようなシステムがあれば良いと思う。

委員 短大の教員をしていた時、18 歳から 20 歳までの就職を前にした若者と接して感じたことは、学校に入ってくるまでの 18 年間がいかに大事であるかということである。地域の人が長い目をもって平等に親心をもって接することが大事だと思う。

委員 子どもと接することが好きで、子どもに関わるボランティアをしている。親や地域の人とのつながりが薄いと子どもに影響があると感じている。大人が積極的に子どもに関わり、つながっていくことが大事であると思う。

委員 青少年の事件を聞き心を痛めている。地域のつながりが大事であると感じる。給食費の未納の問題も気になっている。身近に相談できる場所があれば良いと思う。

委員 これからの青少年健全育成に役に立つ、具体的に反映できるような意見を言っていきたい。今後この実態調査の結果をもとに、計画案を検討していく中で、自分たちが貢献できればと思う。

委員 困っている方からの相談を受けることが多いが、最近小さい頃に関わっていた子どもと久しぶりに会った。自分はその子に言ったことを憶えてはいなかったが、その子は憶えていてくれてうれしく感じた。何気ない会話でも、普段から真剣に考えて物事を言ってあげなければと思った。

委員 青少年問題は課題が多いと感じている。児童養護施設に入所する子どもたちは、さまざまな課題を抱えた子どもたちである。一時期は体罰などの虐待によって入所する子どもが多かったが、最近は家族の病気によるケースが多くなってきている。本人も弱っていることが多く、活発な子が少なくなっている。最近の子どもたちは、スマートフォンやインターネットの普及により頭で解決しようとする傾向がある。将来生活を成り立たせていくためには、手に職をつける、何かが出来るということが武器になると感じている。何かが出来る状況になってから、社会に出ることが大事だと思う。

委員 都立高校の様子について、一時期は生活指導で大変だったが、現在はおとなしい生徒が多くなったと感じている。今問題と思われるのは、スマートフォンといじめの問題と思う。全般的には、礼儀正しい生徒が増えてきており、小学校や中学校の教育の成果だと思う。その教育の成果を都立高校でもさらに伸ばしていきたいと思う。

委員 以前勤務していた児童養護施設では、被虐待児が非常に多かった。この児童養護施設は、漁師町という土地柄で地域の人たちとのつながりが深く、全ての子どもたちを地域で育てるといった風土があった。地域の人たちのつながりが、子どもを育てる上で非常に重要であると感じた。地域とのネットワークをつくり、地域で子どもたちを育てていくような取組が進められれば良いと思う。

最近の児童相談所の通告では、子どもの面前 DV など虐待の定義が広がった関係で、夫婦喧嘩での通告が増えてきている。対応も難しく、苦慮している。

委 員

二小青少対では、異年齢の居場所づくりを心掛けています。同年齢の中で萎縮してしまう子どもたちが、異年齢の中でのびのびと輝く姿を見かける。教室に行けなかった子どもたちが、イベントの中でいきいきと活動する姿を何度も見てきた。青少対で実施するフリーマーケットでは子どもたちの出店を認めており、無駄なことやエコなこと等いろいろなことを学べる場所にもなっている。

また、高齢者交流室の立ち上げに関わった。子どもたちがお年寄りと関わる中で、リラックスしている姿を見る。地域の元気なお年寄りにも子どもたちと関わりをもってほしいと感じる。